

2010年4月26日

北海道知事 高橋はるみ 様

富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴  
平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男

## 平取ダム建設を推進する地方自治体首長への要望

私たちは、平取ダム本体建設の今年度の事業を凍結するとして前原国土交通大臣の方針を歓迎するものですが、北海道知事は推進する平取町、日高町長の意見のみを聞き判断されることは納得できないものです。

私たちが凍結を歓迎するのにはいくつかの理由がありますが、住民や自然保護団体の疑問や懸念を無視する形で進められてきたそれぞれのダム計画が、凍結・見直しによって、民意を反映するように論議され、その結果よりよい河川整備計画が作成されようと考えたからです。

私たちは、北海道知事の、民意をまったく反映しない進め方を第一に批判するものです。ダム建設は、現在だけでなく将来に大きな影響を及ぼす事業です。治水はどうか、利水はどうか、現在の厳しい財政状況から考えてどうなのか、環境はどうなるのか・・・、慎重にも慎重に検討すべき課題です。環境問題は、ダムがある限り続く問題であり、さらにダムはいずれ堆砂などで撤去しなければならない負荷を子孫に背負わせる構造物です。

治水について、最近では、従来の国土交通省が進めてきた、「計画高水」を基本としたダムの考え方に批判や代案が出されてきました。元国土交通省官僚で河川行政に詳しい宮本博司さんは、治水について2点を強調しました：1) 100年に一度の洪水に対応するダムは、それより少ない雨量では必要ないし、それを越える雨量（最近はそのケースが多くなっています）ではまったく役に立たず、二風谷ダムのように100年想定の2倍の堆砂が既にたまり、貯水容量は半減、むしろ決壊の恐れさえでている危険なダムになっています。これは超大な税金の無駄使いです。2) 堤防は洪水がきても破堤しなければ被害はそれほど大きくならない。しかし、現在の堤防は、計画流量の水位を超えると堤防は壊れるように作られている。どんな洪水でも破堤しない堤防づくりは可能だし、国土交通省は以前にはそのことをめざしていたのに、やめてしまった。堤防を強化するほうがずっと国民の生命と財産を守る上で重要であり、必要である。

利水（水道水と灌漑用水）は、3月14日の我々が進めている検証作業の報告会でも専門家の検証を経て以下のことが明らかになりました。1. 二風谷ダムは道が決定した時のアセスで工業用水は不要となり、道の責任も大きく、税金の大きな無駄使いである。平取ダムも二

風谷ダムも、水道、かんがい用水は水利権の柔軟な運用でまかなうことが可能であり、全く必要ない。むしろ二風谷ダムに貯まった泥（ヘドロ）によりダム直下から放流された水を灌漑用水として使い、水田の米に悪影響が出て、味が落ち、価格が下落、水田農家の死活問題を引き起こしていることが判明。ダムによる河床低下で地下水が枯れてきて富川では水道に使っていた井戸が枯れ、大晦日に断水という悲惨な結果を招き、膨大な町税を使い新たに井戸を掘らなければならない事態となっています。このようにダムは、水を滞留させ、土砂を止め、魚の移動を阻止します。このことは、ダムによる水質の悪化、ダム下流の泥化と川床低下、河口域における海岸線の後退と漁場環境、水道かんがい用水などの悪化をもたらし、解決のために町は膨大な予算を毎年つぎ込まなければなりません。現在計画されているダムは、そうした大きな代償を子々孫々に渡り支払ってまで建設しなければならないものなのでしょうか。また、全国を見渡しても、ダム建設によって地域が活性化した例は少ないと考えています。地域住民などに詳しく説明して、積極的な意見を募集し、同意と協力を依頼して、進めるべきものです。

私たちは、地域の問題は地域で決める時代に入ってきたと考えています。ダム建設の膨大な予算を自然環境を豊にする地域本来の活性化や治水に向けるべきだと考えます。従来のおきさつは横において、前原大臣が明らかにした凍結・見直し方針を真摯に受け止めて、ダム計画について地域住民が納得する活発な論議を行うよう、要望いたします。

## 平取ダムの問題点

二風谷ダムが共用開始され、たったの10年で堆砂量が当初計画、100年分の2倍以上の1300万トン堆積してしまいました。開発局は計画の見直しが余儀なくなり、堆砂量を550万トンから1430万トンに見直しました、同時に沙流川の流入量を増やすために、ししゃもの産卵場所の、沙流川橋下流は川幅を広げる為、川の砂利を搬出しています。

一方平取ダムは堆砂量を1170万トンから10分の1の130万トンに変更されました。どうしてこんな計画が成り立つのか、平取ダム予定地の上流も平成15年の大雨で沢や山は崩れたまま放置されています、今でも崩れています。開発局は平取ダムは融雪期放流設備を毎年、春先にゲートを開けて溜まった砂を流すから溜まらないと説明しますが、開発局のパンフレットでは水深50メートル水を貯めると書かれています。そうすると、50トンの重圧が堆砂をした砂にかかります、砂はコンクリート状態になり融雪期放流施設を開放しても砂は殆どながれませんが、それは、二風谷ダムでは7機あるオリフィスゲートを雨が降ると常時開けていますが、ダムの砂は流れるのはゲート付近だけです。堆砂した砂は増える一方です、ダムの役割は果たしていません、巨大な砂場です。

ダムが出来てからの沙流川はいつも濁り、ナマコの漁場は砂に埋もれ、海草のギンナン草はヘドロで干すと白くなり食べられなくなり、何よりもダムが出来てから洪水が4回も起きています、大きな被害も出て裁判も今おこなわれています。

下流の当時の門別町議会では富川自治区連合会の、平取ダムは沙流川の安全対策を下流住民が合意するまで凍結する請願が町議会で平成16年12月議会において全会一致で可決されています。二風谷ダムが出来てから門別地区の水道が河床低下で水が足りなくなり上流の平賀に5億円かけて水道施設造りましたがそれでも足りなく、19年12月にとねっこの湯の前に井戸を2機、7000万円かけて掘りました。

もし平取ダムが造られると、平取ダムは二風谷の1、5倍の貯水量です、平取ダムが（ただし書き操作）ゲート全開を行うと、二風谷ダムも満水状態で洪水調整能力が堆砂で半減している。二風谷ダムが倒壊の危機になる事も予想され、下流の地域は甚大な被害が予想されます。当面二風谷ダムの堆砂した砂を排出すること、同時に二風谷ダムは取り壊し、平取ダムは中止して下さい。

(平取ダム建設問題協議会 菊地日出夫 富川在住)